

にゅーすきじ ねん がつ
ニュース記事から (2025年6月~2025年11月)

新闻摘要

有关遗华日本人等、中国・库页岛归国者的新闻

ちゅうごくざんりゅうほうじんとう からふと さ は り ん き こくしゃかんれん にゅーす
中国残留邦人等、中国・樺太(サハリン)帰国者関連のニュース



6月13日(周五)

【支援中心将增加库页岛归国者"讲述人"名额】

支援战后从中国及库页岛等回国的遗留日本人的首都圏中国帰国者支援・交流中心(東京)決定,增加担任广泛传播从库页岛(萨哈林)等地永住归国者们苦难经历的“战后世代讲述人”名额。该中心表示:“与遗华日本人相比,库页岛遗留日本人在全国范围内并不为人所知。希望通过讲述人的讲演,让全国更多人了解这段历史。”如有需求,将免费派遣讲述人赴全国各地。

6月14日(周六)

【在战后80年的今天,一位遗华日本女性的感受】

东京台东区有个“中国残留孤儿之家”。这里是第二次世界大战后被遗留在中国的日本人聚集的、由“特定非营利活动法人・日中友好之会”运营的场所。创立该法人的池田澄江女士本人也是一名遗华日本人。池田女士说:“我曾被战争摆布。战争中谁都是受害者。孩子死去,父母哭泣。父母离世,孩子成为孤儿。战争最好永远不要发生。”

6月18日(周三)

【作为讲述人,讲述满洲逃亡与遣返的经历】

1934年在旧满洲出生长大的浅野卓先生(现居住于北本市),战争结束时,因有苏联入侵的传闻,他与母亲和弟弟们一起避难。他们寄身于抚顺的满铁宿舍,生活困苦,身处生命危险。一年后,他们乘坐遣返船经舞鹤港回国。回国后,他在东京重建生活。自2011年退休后,

がつ にち きん
6月13日(金)

しえんせんたー からふと きこくしゃ かたべ そういん
[支援センター樺太帰国者の「語り部」増員]

きこくご ちゅうごくおよ からふととうざんりゅうほうじん しえん
帰国後の中国及び樺太等残留邦人を支援する首都圏中国帰国者支援・交流センター(東京)は、
しゅとけん とうきょう
る首都圏中国帰国者支援・交流センター(東京)は、
さ は り ん へいじゅうきこく ひと くら
樺太(サハリン)等から永住帰国した人たちの苦難を
ひろ つた せんご せたい けつてい
広く伝える「戦後世代の語り部」の増員を決定した。
どう
同センターは「樺太残留邦人は中国残留邦人に比べて
ぜんこくてき し
全国的に知られていない。語り部の講話で全国の人に
はな いらい
知ってもらいたい」と話す。語り部は依頼があれば全国
おりのょう はけん
に無料で派遣される。

ど
6月14日(土)

じょせい ねん いま かん
[中国残留邦人の女性が戦後80年の今、感じること]

たいとうく だい
東京・台東区にある「中国残留孤児の家」。ここでは第
じせかいたいせんご と のこ
2次世界大戦後、中国に取り残された残留邦人が集ま
えぬびーおーほうじん にっちゅうゆうこう かい
る「NPO法人・日中友好の会」だ。このNPO法
せつりつ じしん いけだすみ
人を設立したのは、自身も中国残留邦人である池田澄
え わたし せんそう ほんろう だれ
江さん。「私たちは戦争に翻弄された。戦争は誰
ひがい う こども な おや な
も被害を受ける。子供が亡くなって親が泣いてる。親が
こ
なくなって子どもが孤児になる。戦争は絶対しない方
がいい」と語る。

すい
6月18日(水)

まんしゅうとうひこう ひきあげ けいけん
[満洲逃避行・引揚の経験を語り部として伝える]

1934年に満洲で生まれ育った浅野
すぐる きたもと さいじゅう しゅうせんとうじ
卓さん(北本市在住)は終戦当時、
それん しんこう うわさ はは おとうと
ソ連の進攻の噂で母と弟たちと避
なん ぶじゅん まんてつりょう みよ せい
難。撫順の満鉄寮に身を寄せるが、生
かつ こんぎゅう いのち きけん さら ねんご
活は困窮し、命の危険に晒される。1年後に引揚



为了讲述旧满洲的生活经历，他开始在北本市内的中学等地担任讲述人。他说：“只要还活着，我就想继续讲述下去。一旦战争爆发，平民才是承受痛苦经历的人。”

6月29日（周日）

【库页岛遗留日本人——传承记忆的活动】

一场以库页岛等遗留日本人为主题的学习会在前桥市大胡公民馆举行。在首都圈中国归国者支援・交流中心（东京）作为战后世代讲述人开展活动的友末可织女士，讲述并传承了被战争摆布的亲历者的记忆。友末女士结合照片，介绍了一位战前出生于库页岛、80多岁时永住归国的女性在战中及战后的历程。同时，她还讲述了旧苏联军的入侵、此后被迫从事的严酷劳动以及与家人的离散等内容。

7月4日（周五）

【专门面向因语言障碍而孤立的归国者的护理设施】



爱知县名古屋市有个护理设施叫“光之里”。在这里接受护理的，主要是从中国归国的遗留日本人。“光之里”通过提供中餐、中文服务等，营造出亲切熟悉的环境。该设施的负责人王洋先生表示，正是因为考虑到“绝对不能让遗华日本人再次被遗弃”，才将设施转型为专门面向遗留日本人的护理设施。使用者人数从10年前的1人增加到目前的70人。然而，从全国范围来看，此类设施依然匮乏，仍然需要进一步扩大支援。

7月30日（周三）

【遗留日本人——无国的孤独】

岩见铃子女士于1945年3月、8岁时随全家七口人前往旧满洲。战败后进入奉天（现沈阳）的收容所，卫生条件极其恶劣。在母亲“总比这里好”的劝说下，她成为中国人的养女，拼

船で舞鶴港に帰国した。帰国後は、東京で生活を再建。退職後の2011年から満洲での暮らしを伝えようと、北本市内の中学校などで語り部を務めるようになった。「生きている限り、語り続けたい。戦争が起きると、民間人こそがつらく苦しい経験をする」と話す。

6月29日（日）

【樺太残留邦人、記憶をつなぐ催し】

樺太等残留邦人に焦点を当てた学習会が、前橋市大胡公民館で開かれた。首都圏中国帰国者支援・交流センター（東京）で、戦後世代の語り部として活動する友末可織さんが、戦争に翻弄された当事者の記憶を語り継いだ。友末さんは、戦前に樺太で生まれ80代で日本に永住帰国した女性の戦中・戦後の歩みを、写真を交えながら紹介。旧ソ連軍の進攻やその後従事させられた過酷な労働、家族との別れなどについて伝えた。

7月4日（金）

【言葉の壁で孤立する帰国者に特化した介護施設】

愛知県名古屋市にある介護施設「ひかりの里」。介護を受けているのは、主に中国から帰国した残留邦人たちだ。「ひかりの里」では、中華料理や中国語対応など、馴染みやすい環境を提供。施設代表の王洋さんは、「残留邦人を再び置き去りにしてはいけない」と考え、残留邦人に特化した介護施設に切り替えたと話す。利用者は10年前の1人から現在は70人に増加。しかし、全国的に見ればこうした施設は不足しており、支援の拡充が求められている。

7月30日（水）

【残留邦人、国なき孤独】

岩見鈴子さんは1945年3月、8歳の時に一家7人で旧満洲に渡った。敗戦を迎え、奉天（現瀋陽）の收容所に入ったが、衛生状態は劣悪。「ここよ

命学习中文，并在夜校学习读书写字，最终成为一名教师。她与中国人结婚并育有子女，在中国生活至50岁。1986年永住归国后，她因既不是中国人也不是日本人的孤独感而备受煎熬。她说：“我是无国之子。从未发自内心地笑过。希望这种被战争摆布的人生，能在我们这一代终结。”如今已过米寿（88岁）的她，与长女家人同住，并定期前往市内的日间护理所。

7月30日（周三）

【介绍旧苏联遗留日本人的亲身经历】

由北海道主办的和平纪念企划展在札幌市举行，期间举办了介绍库页岛遗留日本人等经历的讲述活动。来自首都圏中国帰国者支援・交流中心（东京）的战后世代讲述人山崎哲先生，介绍了曾居住在札幌的伊藤实先生的经历。山崎先生一边展示在严酷生活中活下来的伊藤先生在旧苏联时期以及归国后的照片，一边强调说：“战争，战后，究竟给遗留日本人及其家人带来了什么，我们必须持续思考这个问题。”

8月13日（周三）

【满蒙讲述人交棒给子女—长野开拓纪念馆】

位于长野县阿智村的“满蒙开拓和平纪念馆”，因原开拓团员老龄化，于2024年12月结束了持续500多场的“讲述人讲演”。自2025年起，纪念馆推出新企划，由原团员子女与来访者对话，从子女视角讲述与父母的关系及家庭环境，并通过这些内容回顾历史，使该活动以每月企划的形式重新启动。该馆正探索向后世传承历史的活动方式。

8月15日（周五）

【天皇陛下对“传承战争记忆”的强烈心愿】

天皇陛下在全国战歿者追悼仪式的致辞中表示：“衷心希望今后也能持续讲述战时与战后的苦难，并不断祈求和平与人们的幸福。”

りまし」と母に諭されて中国人の養女になり、中国語を必死に覚え、夜間学校で読み書きを習って教員になった。中国人と結婚し子供にも恵まれ、50歳まで中国で生活した。1986年に永住帰国したが、中国人でも日本人でもない孤独感に苦しんだ。「私は国なき子。心から笑ったことは一度もない。戦争に翻弄される人生は、自分たちで終わりにしてほしい」と語る。米寿を過ぎた今、長女の家族と暮らし、市内のデイサービスに通う。

7月30日（水）

【旧ソ連残留邦人の体験紹介】

北海道主催の平和祈念企画展が札幌市で開かれ、樺太残留邦人などの体験を伝える講話が行われた。首都圏中国帰国者支援・交流センター（東京）の戦後世代の語り部山崎哲さんが、札幌在住だった伊藤実さんの体験を紹介。山崎さんは過酷な生活を生き抜いた伊藤さんの旧ソ連時代や帰国後の写真を示しながら「戦争が、戦後が、残留邦人とその家族に何をもたらしたのか。考え続けなければならぬ」と強調した。



8月13日（水）

【満蒙の語り部、子へバトン、長野の開拓記念館】

「満蒙開拓平和記念館」（長野県阿智村）は、500回以上続いた元開拓団員による「語り部講話」を高年齢化で2024年12月に終了した。2025年から元団員の子が来場者と対話する新企画を始め、子世代の視点から親との関わりや家庭環境を語り、歴史を振り返る毎月の企画として復活。後世へ歴史を語り継ぐ活動を模索する。

8月15日（金）

【天皇陛下、「戦争の記憶の継承」に対する強い思い】

作为战后出生的陛下，自皇太子时代起就一直强调传承战争灾难记忆的重要性。在2025年2月的记者会上，陛下也表示“我一直将众多民众的苦难铭记于心”，“向未经历过战争的一代传递悲惨经历和历史至关重要”。

8月20日（周三）

【将母亲讲述的库页岛苦难经历写成小说】

1945年8月11日出生于库页岛的山口靖史先生（80岁）战败后不得不与家人一起留在库页岛。在困苦的生活中，山口先生一家靠母亲变卖和服等方式维持生计，1947年得以返回北海道。作为小说社团代表的山口先生，将母亲讲述的库页岛经历写成了小说《被封锁的宗谷海峡》。该作品荣获2020年第51届埼玉文艺奖准奖。山口先生称这部作品为“与母亲的合作之作”。



8月20日（周三）

【传承“北方的姬百合”—库页岛南部9名女性集体自尽】

由于终战后苏联军队仍持续入侵，在库页岛南部真冈（现俄罗斯萨哈林州霍尔姆斯克）邮局曾发生9名女性电话接线员（当时17至24岁）集体自尽事件。事件发生80周年的8月20日，在设有9人慰灵碑的北海道稚内市举行了追悼仪式。1945年8月20日清晨，在苏联军队逼近的情况下，9人留在真冈邮局，在向邻近邮局通报战况等履行职责后，服用氰化钾自尽。该事件被比作冲绳战中悲剧象征的“姬百合学徒队”，也被称为“北方的姬百合”。遗属、原同事亲属及当地高中生等约240人出席，祈求9人冥福。

8月29日（周五）

【在日语教室学习的遗华日本人孤儿讲述苦难】

天皇陛下は全国戦没者追悼式のお言葉の中で、「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います」と述べられた。

戦後生まれの陛下は、皇太子時代から、戦禍を語り継ぐ大切さを強調されてきた。2025年2月の記者会見でも、「多くの方々の苦難を心に刻んできています」とし、「戦争を知らない世代に悲惨な体験や歴史が伝えられていくことが大切」と語られた。

8月20日（水）

【母が語った樺太での苦難の体験を小説に】1945年8月11日、樺太で生まれた山口靖史さん（80歳）は終戦後、家族と共に樺太に残留せざるを得なかった。山口さん家族は生活苦の中、母が着物を売るなどし、1947年に北海道に引き揚げることができた。小説サークル代表の山口さんは、母親が語った樺太体験を「閉ざされた宗谷海峡」という題名で小説にした。作品は2020年の第51回埼玉文艺賞で準賞を受賞。山口さんは「母親との合作」と語る。

8月20日（水）

【「北のひめゆり」語り継ぐ、南樺太、女性9人が集団自決】

終戦後も続いたソ連軍の進攻により、南樺太・真岡（現ロシア・サハリン州ホルムスク）郵便局で女性電話交換手9人（当時17～24歳）が集団自決した事件から80年の8月20日、9人の慰霊碑がある北海道稚内市で追悼の式典が開かれた。9人は1945年8月20日朝、ソ連軍が迫る中真岡郵便局に残り、近隣の郵便局に戦況を伝えるなどの職務を全うした後、青酸カリを飲んで自決した。沖縄戦の悲劇の象徴となった「ひめゆり学徒隊」になぞらえ、「北のひめゆり」とも呼ばれている。遺族や元同僚の親族、

战后 80 年，遗华日本人孤儿已步入高龄，如何将悲剧传承下去成为课题。在“支援遗华日本人孤儿兵库之会”运营的“明石日语教室”学习的孤儿长尾益美女士，在 20 岁时才知道自己是日本人。终战时她只有 3 岁，由中国养母抚养长大，对亲生父母几乎没有记忆。50 岁时永住回国后，由于日语不好，只能从事体力劳动。当被问及为何历尽艰辛也要回国时，她说：“因为日本是我的祖国，所以我回来了。但或许直到生命最后，我也无法成为普通的日本人吧。”

9月14日（周日）

【遗华日本人三代之妻开设日间护理所】

丈夫为遗华日本人第三代，出生于中国的石井彩华女士，于 2024 年 6 月在长野市筱之井开设了能提供中日双语服务的日间护理所。当地高龄者与遗华日本人第一代、第二代等在这里度过安宁的时光。石井女士于 2000 年结婚，20 岁来到日本。她逐渐掌握了日语，并于 2020 年取得介护福祉士资格。她决定独立创业，开设一家“无论是日语还是中文都能应对，且与社区紧密结合的日间护理所”。设施名为“福寿缘”。30 名使用者中有 6 人为遗留日本人第一、二代及其配偶。石井女士表示：“遗华日本人中，许多人在当地缺乏归属感，一直艰辛地生活。希望‘福寿缘’能成为在当地共同生活的温馨去处。”

9月14日（周日）

【津南乡“满蒙开拓团”缅怀牺牲者举行慰灵祭】

在新潟县津南町外丸的善玖院，举行了悼念战时从津南乡前往满洲并在当地去世者的慰灵祭。今年有 17 名町民出席，重申了将历史传承给后世及对和平的誓言。据称，津南乡开拓团在终战时约有 320 人，其中约 100 人死亡或下

じもと こうこうせい やく さんれつ めいふく いの
地元の高校生ら約240人が参列し、9人の冥福を祈った。

8月29日（金）

にほんごきょうしつ かよ ちゅうごくざんりゅうこじ
【日本語教室に通う中国残留孤児が苦難語る】

せんご こうれいか
戦後80年、中国残留孤児は高齢化し、悲劇を語り継ぐことが課題となっている。「中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会」の「明石日本語教室」に通う孤児のながあ じぶん し はたち
長尾ますみさんが、自分が日本人だと知ったのは20歳のとき しょうせんじ ちゅうごくじん ようほ そだ
の時だった。終戦時は3歳で中国人の養母に育てられ、母や父の記憶はほとんどない。50歳で永住帰国し、帰国後は日本語がうまく話せず、仕事は肉体労働ばかりだった。なぜ苦勞してまで帰国したのかと聞くと、「日本は私の祖国だから帰ってきた。でも死ぬまで私は普通の日本人にはなれないかな」と話す。

9月14日（日）

せい つま ていさーびすひら
【中国残留邦人3世の妻、デイサービス開く】

おっと も しゅっしん いしいあや
中国残留邦人3世の夫を持つ中国出身の石井彩華さんが2024年6月、長野市篠ノ井で日本語と中国語での対応ができるデイサービスを開設した。地域のこうれいしゃ きこくしゃ おだ じ
高齢者とともに中国帰国者1世、2世らが穏やかな時間を過ごしている。石井さんは2000年に結婚し、20歳で来日した。徐々に日本語を習得し、2020年に介護福祉士の資格を取得。「日本語でも中国語でも対応できる地域密着型のデイサービスを開きたい」と独立を決めた。施設名は「福寿縁」。利用者30人中、6人が残留邦人の1世、2世やその配偶者だ。石井さんは、「残留邦人の中には地域に居場所がなく、苦勞しながら生きてきた人がたくさんいる。福寿縁が、地域でともに暮らす憩いの場になれば」と願っている。

9月14日（日）

つなんごう まんもうかいたくだん ぎせいしゃしの いれいさい
【津南郷「満蒙开拓団」、犠牲者忍び慰霊祭】

せんじちゅう にいがたけん まんしゅう わた げんち
戦時中、新潟県津南郷から満洲に渡り、現地で

落不明。会长山田利彦表示：“为了传承战争的悲惨，今后希望考虑让初中学生也能一起参加。”



◆请注意：本栏目的新闻为见诸报端的报道摘要，并非政府正式公布的内容，其中一部分还包含媒体的观察消息。

亡なくなった人々の慰霊祭が、津南町外丸の善玖院でひとびと行つなわれた。今年なは町民ひとら17人が参列つなし、後世ぜんくへ語いんり継ぜんぐことまり平和への誓ちかいを新あらたにした。津南郷かいの開かい拓かい団員たくだん数は、終戦時いんすうは約320人だったが、約100人がたくだん死亡・行方不明しほうとなったという。山田利彦会やまだとしひこ長は「戦争せんそうの悲惨ひさんさを語り継こんごぐため、今後は中ちゅう学生がくせいにもさんか参加かんがしてもらえるよう考かんがえていきたい」と話した。

◆ご注意：本欄の内容は、一般の新聞などで報道された内容を中心に要約して掲載しています。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれています。